

財団法人8020推進財団
平成26年度歯科保健活動事業助成交付事業 抄録

1. 事業名：医療と介護の連携構築への活用の検討
～血中グルコースと歯周基本治療の治療効果について～』

2. 申請者名：千葉県歯科医師会 会長 斎藤 英生

3. 実施組織：

事業主体：千葉県歯科医師会 地域保健医療委員会

協力団体：日本大学松戸歯学部 歯周治療学講座

東京歯科大学 歯周病学講座

4. 事業の概要：

本事業は、日本大学松戸歯学部並びに東京歯科大学の事業に対する倫理審査委員会による審査を受けて実施している。事業実施の前段階として、測定にあたった千葉県歯科医師会地域保健委員会は日大松戸小方教授のキャリブレーション研修会と血糖値・HbA1cの測定装置の使用法研修会を受講した。事業に助言を頂いた医科の方の見解などに基づき、血糖値のみの検討では再現性が期待できなかったため、HbA1cの値と歯周処置の関連性も検討することとした。本事業に使用した測定器材はシオノギ社製チエックカートリーダー（資料1）で、測定場所は千葉県歯科医師会地域保健委員会を構成する歯科医師の診療所で行っている。また、N数確保の目的で、初診の患者のみならず従来から通院している糖尿病患者も対象として、さらに近隣の医師に患者紹介の依頼も行った。本事業で測定した内容は添付糖尿病歯周疾患検診受診記録票（資料2）のとおりである。ただし、協力患者の体調などの都合で1回のみ測定、あるいは健診担当者の器材操作の誤りでデータが欠測されている例もあった。測定総数は21例であったがそのうち2例はHbA1cの測定が1回のみであった。

歯周基本治療の効果は血糖値では不明であるが、HbA1cと歯肉出血においてなんらかの関係が見出された。

5. 事業の内容：

本事業の内容は、下記のとおりである。

- ①近隣内科医療機関へのパイロット事業であることを含めた趣旨説明と患者紹介依頼
- ②歯周組織検査のキャリブレーションと使用機材の取り扱いに関する研修会
- ③診療所での歯周組織検査と血糖値ならびにHbA1cの測定
- ④診療所でのブラッシング指導と歯周組織に対する処置
- ⑤期間を経ての再度の歯周組織検査と血糖値ならびにHbA1cの測定
- ⑥結果とりまとめと考察

結果としては、21例の患者に協力を承諾いただき、血糖値HbA1cの測定を実施し歯周組織検査を行った。簡便な分析によれば、歯肉出血とHbA1cに何らかの関連性が指摘できる可能性が認められた。

6. 実施後の評価（今後の課題）

本事業の問題点として、協力いただける候補者への事業説明の手間が大変大きいことが、まず指摘できる。同意書の理解などを得る前に、説明を遮る例などもあるので、いかに簡略化した説明資料を用意するかが、今後の課題といえる。また、糖尿病の重度の方の場合、協力の意志があっても体調が不安定で通院が不能になる場合もあった。さらに、歯科医師側も測定装置に不慣れであると、円滑に測定ができず、それで協力が得られにくくなることもあるようである。

一方、得られた数値などについて検討した結果、HbA1cがわずかでも改善した場合は、歯周組織への処置の効果で歯肉出血が改善していた事例が大半であった。炎症性因子であるTNF α などが多量に歯周組織から生じていると糖尿病治療の阻害要因になり、歯肉出血の改善は歯肉炎症の改善が図られたことを示すことと考え合わせて、この出血改善とHbA1cの改善の関係は確からしいものと考えられる。さらに本事業では薬剤を使用することなく、ブラッシング指導とスクレーピングで歯肉出血を減少させ、そのことがHbA1c改善にもつながった可能性が高く、多くの診療所が糖尿病の改善に貢献することができる足掛かりになる事業であったものと考えている。また、医科歯科連携において、医科側から指摘される紹介する際の血糖値の基準を検討する材料に、歯肉出血の部位の割合や度数を用いることが示唆された。